

# メロウド(イカナゴ親魚)の年齢組成、成熟状況の把握

## 1. 背景

イカナゴは本県沿岸漁業にとって産業的かつ他生物の餌として生態的にも重要な魚種のひとつです。

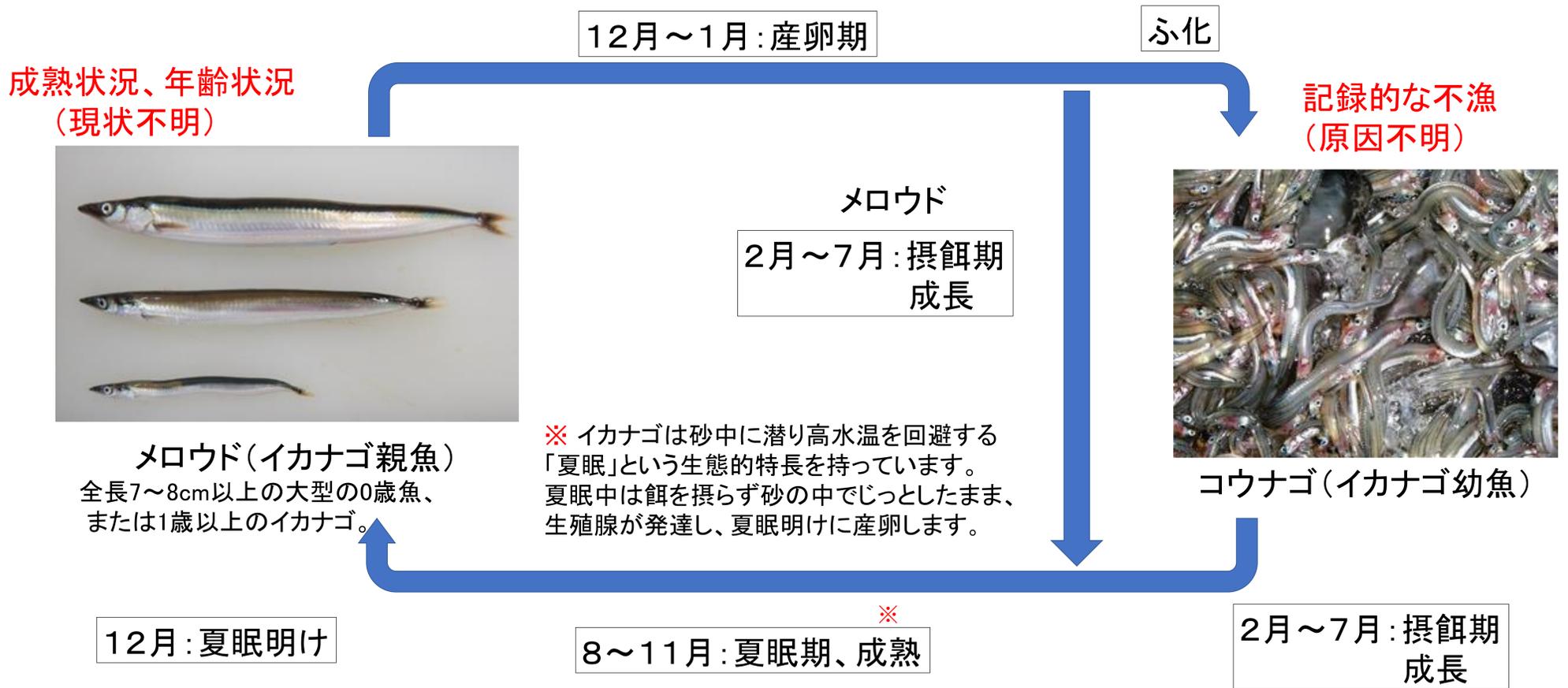
しかし、震災後の平成25年から開始されたコウナゴ(イカナゴ幼魚)試験操業において、平成31年に漁獲量が皆無となったことから、資源保護のため令和2年以降は操業を自粛しています。この記録的な不漁の原因はいまだ明らかになっていません。

そこで、操業対象となっていないメロウド(イカナゴ親魚)の資源状況を把握するための調査を行いました。

## 2. 材料と方法

令和3年1月8日～2月12日にかけて、相馬双葉漁業協同組合の漁業者から提供された産卵期のメロウド(メス)189個体を用いて、精密測定(全長、体長、体重、生殖腺熟度、生殖腺重量)と耳石による年齢査定を行い、成熟状況、年齢組成を調査しました。

## イカナゴ生活史



## 3. 結果

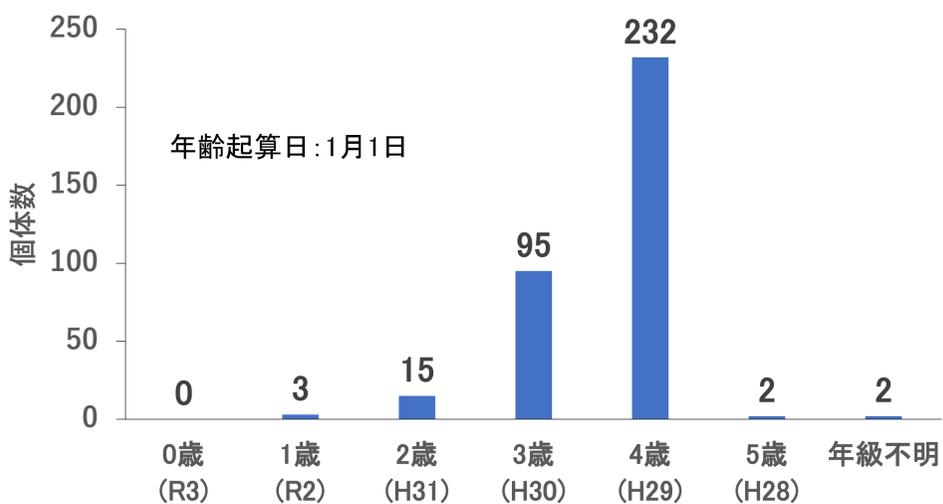


図1 年齢組成

- 4歳魚(平成29年生まれ)が全体の約66%を占めていました。
- 平成30年生まれ以降では若齢魚ほど割合は低くなっていました。

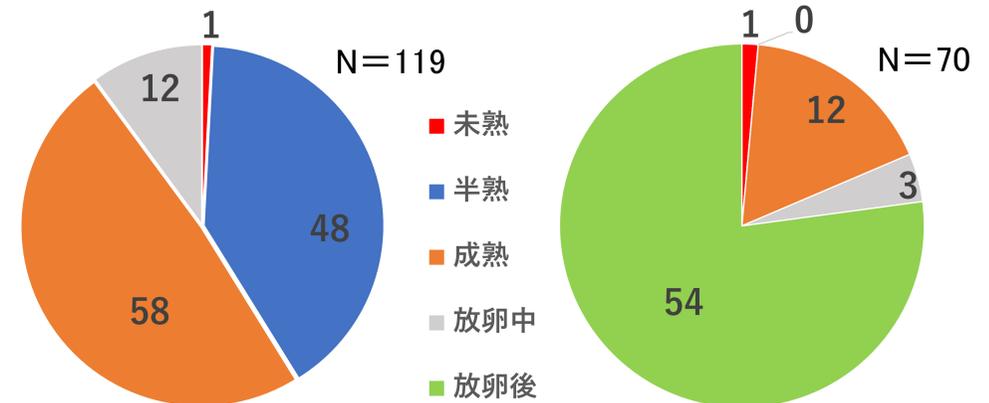


図2-1 メロウド(メス) 1月成熟状況(1/8～1/20)

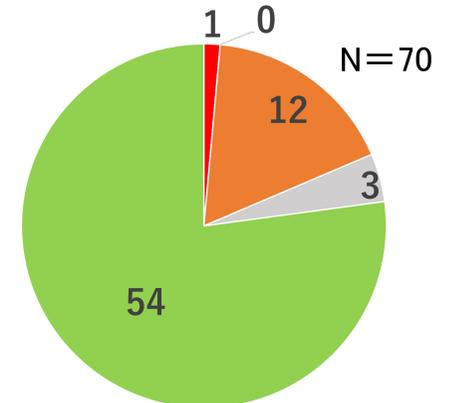


図2-2 メロウド(メス) 2月成熟状況(2/5～2/12)

- メロウド(メス)189個体の成熟状況の推移から、1月下旬～2月上旬をピークに産卵が行われたと考えられました。

## 4. まとめ

2月にはメスの産卵が概ね終了しており、従来と比較して産卵時期に変化はみられないと考えられました。一方で、今回の調査では4歳魚(平成29年生まれ)未満の若齢魚の割合が低いことが確認されました。

引き続き、年齢組成と成熟状況を把握し、イカナゴ親魚の資源状況との関係を調査していきます。